

地域再生計画（地域基盤強化交付金）事後評価調書

都道府県名	埼玉県	事業実施主体	埼玉県、小鹿野町	地域再生計画名	訪れてみたいふる里づくり計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	総合政策課 企画政策担当		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績			
指標 1	間伐面積 900ha（全計画5年間の合計を5%増加）	850ha（1年度当たり170ha）	平成17～21年度			900ha（1年度当たり180ha）	平成22～26年度	817.97ha	△	間伐面積の各年度ごとの実績は、H22年度：138ha、H23年度：183ha、H24年度：77ha、H25年度：212ha、H26年度：208haであった。道整備事業は予定通り完了することができたが、平成24年度には東日本大震災の影響もあり、5年間全体の間伐面積の目標に達することはできなかった。しかし、H25年度、H26年度の単年度の間伐面積は200haを超え、単年度あたりの目標を20ha上回ることができ、本事業での林道とそれにつながる町道整備の成果は十分に発揮されたと思われる。
指標 2	観光資源の有効活用（観光入れ込み客数の増加）	23.9万人	平成20年度			25.1万人	平成26年度	239,610人	△	両神山・二子山に自家用車でハイキングに来る観光客も多く見られ、林道・町道整備による観光来訪者の利便性を向上させることができたと考えられるが、現状では目標を達成するまでには至らなかった。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1									
	指標 2									

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（H）	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（改良）	447		447	事業量の軽微な変更はあったが、予定通り事業を完了することができた。改良を行ったことで市街地及び県道43号線・国道140号線・秩父市へのアクセスが改善され、秩父圏域・都市部との交流が促進され、住民生活の利便性が向上したと考える。
	林道整備事業（開設・改良・舗装）	9,623		9,425	路線ごとの事業量の変更はあったが実情に即した整備の実施ができ、林道全体としては計画通りの整備ができた。その結果、森林へのアクセスが改善され、H25・H26年度の間伐面積は1年度あたりの目標を大きく超える事ができた。また、山間部に集落が点在し、林道が生活道としても非常に重要である本町では、本計画の林道整備によって谷沿いに広がる主要道路同士をつなぐ林道が整備されたことで、地域間の交流がしやすくなり、地域住民の生活環境・利便性が向上したとともに、観光来訪者の利便性も向上したと考える。
その他の事業	既存事業の拡充				尾ノ内渓谷では、ホームページやパンフレットなどによる積極的なPRにより観光来訪者が増加したことに伴い、平成25年度に「尾ノ内渓谷入口」バス停を新設、平成26年度には、携帯電話の電波通信用鉄塔を整備し、尾ノ内渓谷内の電波通信状況を改善した。また、冬季に限らず四季を通じて観光来訪者を呼び込むため、シャクナゲ園の維持管理や新たなご当地グルメの開発などを行っている地域住民活動の支援も行っている。 平成20年度から開演した両神山麓花の郷ダリア園は、毎年地域住民を中心として維持・管理や、植栽品種の拡大が行われ、平成26年度には340種類、5200株のダリアが咲き誇った。観光来訪者も増加して、平成26年度には2万6千人が訪れる人気の観光スポットとなった。ダリア園はマスコミに取り上げられるなどPR効果があり、交流人口の増加につながることを期待される。 今後も、これらの既存事業の財政的・人的支援を行い、広報活動に努めることで観光来訪者の絶えない魅力的な観光地の維持を図る。
	イベントの開催				各観光地でのイベントや、春まつりを始めとする各地域の祭事をホームページやパンフレットを中心に、メディアも活用してPRに努めた。また、ふるさとまつりなどの町主催のイベントも開催した。福寿草・花菖蒲園などの花の園地での祭りでは、甘酒・ポン菓子等の無料配布を行い、観光来訪者へのおもてなしによってリピーターの創出を図った。
	公共交通機関の再構築の検討				路線バスを含む公共交通機関について、現行バス路線の見直しやデマンド交通の導入などを含む交通機関の再構築を検討する。 平成25年度に、町営バス路線の見直しを行い、町村合併により路線が重複していた箇所を統合して5路線から3路線とした。また、この再編により交通空白地帯となった長若地区の公共交通を維持するため、乗合タクシーを導入した。今後も地域住民・観光来訪者双方にとって利用しやすい公共交通の維持に努める。
計画外で独自に実施した事業					

④評価方法	計画を作成した担当課によって最終目標値の実現状況に関する評価を行った。
⑤事後評価の公表方法	小鹿野町ホームページに掲載
⑥計画全体の総合評価	本計画の道整備交付金を活用した町道・林道の整備は概ね計画通りに完了することができ、交通の利便性向上を図ることができた。林道整備では、三山地区と両神山地区とを結ぶ皆本沼里線、藤倉と河原沢地区とを結ぶ茅ノ坂峠線の整備によって、山で隔てられた谷合の地区同士をつなぐことで、地区間の移動・交流が促進され、山間部を含む町内全域に点在する観光スポットや集落のアクセス改善による観光来訪者及び地域住民の利便性が向上したと考えるが、観光入込客数の目標に達するには至らなかった。また、間伐面積については災害の影響もあり、5年間全体の間伐面積の目標に達することはできなかった。しかし、H25・26年度の単年度の間伐面積は200haを超え、単年度あたりの目標を上回ることができ、本事業での林道とそれにつながる町道整備の成果は十分に発揮されたと思われる。今後も引き続き町道・林道未整備箇所の整備を行うことで、圏域内外の交通利便性を向上させるとともに、森林間伐による景観保全に努め、将来的に圏域全体の交流人口を増加させることを目指す。
⑦今後の方針等	市街地から道路が放射状に延びる小鹿野町の特長により、自家用車が主な交通手段であることは変わらず、道路などの交通インフラの未整備箇所の改善は今後も当地域にとって重要な課題である。本計画では、災害の影響もあり、間伐面積の目標を達成することができなかったが、実情に即した適切な間伐を行うことで今後も良好な森林資源・景観の保全に努める。また、両神山麓花の郷ダリア園・尾ノ内渓谷を始め、山間地域の観光地が賑わいを見せており、こうした交通インフラの整備によって、観光地への更なる誘客を図るとともに、交流人口の増加を図る新規事業の検討を行い、道路整備によるアクセス向上効果が観光面においても十分に発揮されるよう努める。